



ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2009年5月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「希望の灯となろう」・「分かち合いは微笑をもって」
- アジア地域会長 : 「希望の灯となろう」・「より良き奉仕のために共に働こう」
- 西日本区理事 : 「思いやりを持ってワイズライフを！」
- 中部部長 : 「楽しくワイズ、スクラム組んで」
- プラザクラブ会長 : 「学びを深めつつ、着実な活動を！」

〔強調月間: 評価・計画〕

5月例会・今後の予定ご案内

【5月第1例会】

日時: 5月14日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 内容: 1. 次期大島中部部長の方針について
 2. 中部部会開催パンフレットについて

【5月第2例会】

日時: 5月28日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 出席者: 役員(大島・榎田・松永)
 (義務者)6月担当者(榎田・後藤)

【今後の予定】

1. 第12回西日本区大会
 日時: 6月6日(土) - 7日(日)
 場所: 大会会場・熊本市市民会館
2. 6月第2例会
 日時: 6月11日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
3. 中部部会次期役員引継ぎ式
 日時: 6月13日(土)・14:00-
 場所: 名古屋YMCA 3F会議室
4. 6月第1例会(POM)
 日時: 6月20日(土) - 21日(日)
 場所: ホテル美輝 0576-47-2641
 〒509-2615 岐阜県下呂市馬瀬西村1695
5. 中部部会
 日時: 9月6日(日)
 場所: 名鉄ニューグランドホテル

第69回ワイズメンズクラブ国際協会・国際大会
 日時: 2010年8月5日(木) - 8日(日)
 場所: パシフィコ横浜

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ
 開催前日の午後5時までにご連絡ください。

4月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎	○	○	○	○
	小澤 幸男	○	○		○
書記	榎田 守隆	○	○		○
直前会長	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○			○
副会長	鈴木 誉三	○	○	○	○
	高田 廣	○	○		○
会計	松永 裕子	○	○		○
連絡主事	万福寺 昭美	○	○		○
広義会員	山本 茂樹				
ゲスト	斉藤 襄	○			
(M)	1. ガザ支援街頭募金				
*メーキャップ				
*部会・Yの 主催行事				
出席率合計・(算定合計/会員数)					100.0
1. ニコボックス ・当月/累計		0	40624		
2. オークション		0	31300		
3. 切手		0	0		
ファンド ・当月合計/累計					71924
◆次月号の寄稿者は大島さんです。					
Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

4月第1例会報告

日時：4月9日(木)・18:45-21:00

場所：魚々美

1. 新年度ロースター改定・大島

(1)住所・電話番号・Eメールの変更、新設など旧版と異なる場合、訂正・加筆願います。

(2)購入部数6冊

(3)会長は、3月第1例会で決定した、クラブ役員を西日本区事務所に連絡する。

2. 西日本区大会参加者確認・大島

4月9日現在、大島さん・島崎さんの2人

3. 中部部会開催のパンフレット・大島

9月6日(日)、名鉄ニューグランドホテルで開催する中部部会の案内パンフレット作成を4月第2例会で具体化する。

同パンフレットは、6月6日、7日の西日本区大会に持参、他地域の部会・クラブにPRする。

4. 反省会

上前津にあった前YMCA隣の居酒屋「魚々美」での開催に感慨もひとしお、会館の跡地に30階を越えるマンションを見上げながら、「変わったなあ」と子どものころ通った当時を思い出した人もいたようだ。

総勢10人の反省会は、久しぶりに参加されたOBの齊藤さんの近況報告から始まった。杯を重ねるごとに話題があちこちに飛ぶ。さて何を話したか、そうだ釣りをしようと約束したな、と心もとない。6人でイサキ釣りと駄目な曜日？行ったり来たりの話しを紡ぎながら箸袋にメモをする。さて、アルコールも食べ物も鱈腹詰め込んだ。9時、会は無事に終了、高いマンションが威張っているように見えた。

4月第2例会

日時：4月23日(木)・

場所：名古屋YMCA会議室

1. BFデリケートの方を案内・大島

BFデリケートのアルジェリア代表者2人(クララさん・アマンドさん)が、5月24日から28日まで中部の各クラブがお世話する。プラザが担当する5月26日は、大島さん・松永さんに名古屋の案内をお願いする。

2. 中部部会次期役員引継ぎ式開催・大島

(1)部長・事業主査の引継ぎ式を行う

日時：6月13日(土)・14:00-

場所：名古屋YMCA 3F 会議室

出席：大島(次期部長)

鈴木(事務局長)

島崎(書記)

後藤(会計)

(2)「小さいのち」支援金贈呈

3月21日東別院会館ホールで行われた「チャリティステージ」の収益金の中から、プラザクラブが応援している「インフルエンザ脳症・小さいのち」に10万円を支援金として贈呈することになった。小澤さんより「小さいのち」代表者の宮澤さんに連絡、当日の出席を依頼する。

3. 横井さん退会・大島

横井さん提出の退会届を受理し3月末日のプラザクラブ退会を全員同意する。

大変な時代の中で奮闘されているようです。世の中が落ち着き、時間に余裕が出来るようになった時の再入会を楽しみにしております。また、ときどきの飲み会などの行事にもご参加ください。

4. 5月第1例会・大島

(1)5月担当者の予定が退会した2人のため、6月担当者榎田さん・後藤さんを繰り上げ、6月担当は松永さんとする。

(2)a. 中部次期部長方針の具体化話し合い

b. プラザ主催となる中部部会(9月6日)開催のパンフレット原稿を確定し印刷またはコピーにて作成、6月6日の西日本区大会の折り関係者に配布する。

5. 6月の例会・大島

6月20日-21日(POM)を第1例会とするため、6月11日(木)を第2例会とする。

ガザYMCA支援街頭募金

さる3月28日(土)にイスラエル軍の大規模攻撃を受けたパレスチナ自治区ガザの子どもたちの支援のため、中区栄で街頭募金を行いました。当日は名古屋中央教会に集合し、YMCAの国際協力について学び、報告を聞く会を持ちインターアクトクラブの高校生やワイズメンズクラブのみなさまを中心に、15名が集結しました。その後、1時間程街頭募金を行いました。

花冷えの寒い夕刻でしたが、30,000円の募金が寄せられました。(名古屋キリスト教青年会発行・名古屋青年より)

3月29日付中日新聞は、「ガザに関心栄で募金活動 名古屋YMCA」の見出しで記事を掲載、高校生とともにポスターを掲げたわがクラブの鈴木さん、大島さんの写真が載っていました。

BF デリゲート報告・北村 久美子

2008年7月31日から8月3日まで、デンマークのヘアニングで開催されました、第68回国際大会にBF デリゲート(パーシャルグランド)として参加させて頂きました。

7月30日、関空を離陸する前から、すでにヘアニング。ルフトハンザ航空のストライキで、2時間遅れのフライト。乗り換え空港に着いた時にはすでに予約機は出発しており(当然やろ)西日本区からのメンバーは3組に分かれてビルン空港に向かうことに。5名の1組は次の便で、ビルン空港へ。残りはコペンハーゲン経由でビルンへ。そのうち5名はコペンハーゲンで1泊し、次の朝到着。私を含む24名は夜中の2時にヘアニング到着。内、1名のトランクが見つからず、てんやわんや。みんなへとへとでホテルに着きました。7月30日は1日が32時間位(普通は24時間ですが時差のため)あるという長い日をほとんど飛行機と車の中で過ごしました。

31日、大会第1日目、みんな午前中、街にバスツアー。私は、大会のリハーサルのため、会場へ。受付で東日本区のエリンさんに出会い、西日本区の登録者の名札と大会グッズ整理のお手伝い。こうしておく、日本の参加者が早く登録できるからです。(東西事務所は影のお手伝い)10時からフラッグセレモニーのリハーサルは説明のみの簡単なもので、ワイズのBF デリゲートなら理解しろ!!とでもいうことでしょうか?(納得)

(フラッグはアルファベット順にきちんと整理されており、誰がどこの国旗を持つかは事前にメールで知らされてきました)

HCCC デール氏が「2時前に集合。久美子遅れたら、ギロチン!」とみんなを笑わせていました。(何で私やねん!?)

いつものように拍手や写真のフラッシュも無く、大会は厳粛な中で始まりました。会場外のモニターを眺めながら、順番を待つ心の高鳴りは、緊張と喜びが交錯していました。

横浜大会アピール用の法被を着て、日本の国旗を掲げ、ワイズメンとして、またBF デリゲートとしての思いをかみしめ、入場させていただきました。

国際会長交代式が行われる様子を他の国からのBF デリゲートと共に、用意された席で、感無量の思いで見入りました。夜は直前国際会長主催晩餐会。デンマークのジャガイモとビーフ? そして甘いケーキ。何度も同じ料理が出るのがデンマーク式だとか・・・(隣のデンマークのメンバー

の説明)この日は興奮の内に休みました。

大会2日目、国際書記長ロランドからの報告があり、これからの計画等、多岐にわたってパワーポイントで示されました。また、メンバー数の推移などもグラフを使って分かりやすい報告でした。(これも全て、通訳をして下さっている東西メンバーのお陰です。感謝)

横浜大会のアピールは舞台狭しと集まった日本の参加者で大いに盛り上がりました。揃いの法被もアピールに十分効果がありました。

昼食時、壇上でBF デリゲートの紹介がありました。(後で思ったのですが、この日の昼食が一番豪華でした)午後は分科会で、私は国連プログラムでもあり今回取り上げられたマラリア撲滅運動に関する話し合いに参加しました。元国際会長のオーレ・ハンセン氏の説明があり、討論会になりました。さすがにアフリカなどの方々は深刻な問題として受け止め、具体策もたくさん出ました。これに関しては改めて、区からの要請がメンバーに出されると思います。この場合も谷本国際議員の通訳で、理解が深められました。

夜はお国自慢大会。日本は、アジアのメンバー全員で「上を向いて歩こう」を大合唱。昨日とは少し味は変わっていたものの、中身は同じジャガイモとビーフ。そして甘いケーキでした。夜、晩さん会終了後みんなでルーテル教会へ。何度も大会に参加していますが、夜の礼拝は初めてでした。

大会3日目、谷本ワイズの朝の奨励で始まりました。驚は70年近く長生きするが、30年たった時、自分の選択をするのだとか。ポロポロになった嘴と羽根を自らおり、新しい嘴と羽根が生えてくるまで崖に潜んで耐え、残りの30年近くを生きるのか、そのまま死に絶えるかのどちらかだそうです。これはICMでISGロランドが話した奨励だったのですが、谷本国際議員が感銘を受け、みんなに披露して下さいました。そしてワイズも同じ様にクラブが30年位たてば見直す必要があるのでという話でした。その後分科会の報告がありました。ここでも一番はマラリア撲滅に関する内容でした。アジアはその後エリアミーティングがあり、アジア会長就任式が行われました。決算報告等議案が次々と片付けられましたが、少し時間が足りないように思いました。

午後はホスト主催のバスツアーで、日本人の多くはオールドタウンに出かけました。明治村を小さくしたような感じの町でした。スコールに見舞われましたが、直ぐにやみ、蒸し暑く、涼しい北欧のはずが、日本の夏を思い起こさせました。夜のプレジデントボールは少し豪華? でサーモン

と白ワインが出されていました。出し物はダンス。アクロバットのような軽やかな踊りが次々と披露されました。みんなのダンスタイムが始まったのは10時半頃、何時まで続いたのかはわかりません。夕食タイムは全て席が決められており、いろんな国の方(デンマークの人が多い)と交流が持てました。英語が話せないと、少し困難をきたす感もありますが、せっかくの大会参加ですから、日本人がかたまるよりは楽しい食事ができました。PIPとも同席できたり、これは素晴らしい席の決め方だと思いました。ホテルにはクーラーがなく、夜は毎日窓を少し開けて眠りました。(静かな街?なので安心)

最後の日は・・・(次号につづく)
(西日本区事務所 担当職員 北村 久美子)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【放蕩息子】

【イエスは『こう話された。「ある人に息子がふたりあった。弟が父に「おとうさん。私に財産の分け前を下さい。」と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。それから、幾日もたたぬうちに、弟は何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。(ルカの福音書 15. 11-13)』彼は食べるのに困り、仕方なく彼は父のところに戻った。「おとうさん。私は天やあなたに対して罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格がありません。雇い人のひとりにしてください。」と許しを請う。すると父親は叱るどころか、しもべたちに子山羊を屠(ほふ)るなどして祝いの準備をさせ、彼らと祝宴を始めた。畑から帰った兄は怒って父にこう言った。『「長年の間、私はお父さんに仕え、戒めを破ったことは1度もありません。その私には、友たちと楽しめと言って、子山羊を1匹下さったことはありません。それなのに、遊女におぼれてあなたの身代を食いつぶして帰って来たあなたの息子のために、子山羊をほふらせなされたのですか。」父は彼に言った。「おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おまえのものだ。だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。」(15. 29-32)』】

【創元社発行の「聖書の名句」をひも解くと兄の態度は、「愛を理解できず人を許すことができない狭量な人たちファリサイ派(注1)と律法学者(注

2)への批判である」と解説している。父とともに真面目に生活した兄が、狭量な人に喩えられては救われまい。ここでは、親は出来が良かろうが悪かろうが子に対する愛情は変わらない、親の愛は純粋で神の愛と同じように分け隔てのないものである、と解釈するのが無難ではないか。】

(注1)モーゼの律法を厳格に従い、異邦人とのかかわりをすべて避けることを誇りとする人々。

(注2)旧約聖書の聖文を筆写する書記、後に律法を解釈する者となり権力を持つようになる。(ネット:聖書用語より)

ZOOM・落語でお馴染みの放蕩息子

放蕩息子といえば落語でお馴染みの大店の若旦那である。勘当されて出入の船宿や棟梁に居候する噺(はなし)、「船徳」や「奴湯(湯屋番)」は桂文楽や柳家小さんの洒脱な話しっぷりやしぐさを思い出す。聖書のたとえ話「放蕩息子」のような親子の情愛が伝わるのは、三遊亭円生の人情噺「火事息子」がいい。

質屋の若旦那は、火事好きが高じて臥煙(がえん:火消し人足)になり、親から勘当を言い渡される。ある年、店の近くから火事が出た。左官の親方に質蔵の目塗り(土蔵の扉や窓を閉めて、隙間を練り土で塗り込めること)頼んだが、風上だからと断られた。やむなく番頭にやらせるが高い所を怖がって埒が明かない。途方にくれていると、一人の臥煙が屋根から屋根を伝って来て、番頭の目塗りを手伝ってくれた。

火事は収まった。番頭は主人に「臥煙が会いたいと言っている」と取り次ぎ、「勘当になった若旦那です」と明かす。

主人「なんて危ないことを・・・、怪我でもしたらどうするんだ。あっ・・・他人様だから関係ない。お引取りを」

若旦那「それではこれで」と帰ろうとする若旦那を番頭が引きとめ、おかみさんと呼ぶ。そこに猫を抱えた母親が出てきた。

おかみさん「この子は粹な身なりも似合いましたが、黒の紋付もよく似合いました。この子に黒羽二重の紋付の着物に、仙台平の袴をはかして、小僧を伴につけてやりとうございます」

主人「こんなやくざな奴にそんな身なりをさしてどうするんだ」

おかみさん「火事のおかげで会えたから、火元へ礼にやりましょう」。お後が、よろしいようで。

蛇足ながら、このオチの後の決まり文句は、八代目桂文楽の口癖だったようで、今ではほとんどの噺家が常套句のように使っている。